

便利なローラートレイ付広口容器 (特許取得済み) の使い方

この容器はローラーバケが直接入り、天面のトレイ部分で塗料をしごくことができる画期的な容器です。下記の使用方にしたがってご使用下さい。
使用するローラーバケはミドルローラーやスリムローラーが適しています。

使用方法 ●使用前に容器を前後によく振り、中の塗料を均一にします。(フタが開くおそれがありますので、注意して下さい)

① フタが容器の中に落ちないよう、フタについているつまみを持ちながら、フタの矢印のところにと容器の角の間に、マイスドライバーを差し込んでフタを開けます。フタの裏や容器の口の端に、半乾きの塗料がついていることがありますので、濡らしたウエスでふき取り、フタは保管しておきます。

② 右のようにラップでおおっておくと、洗う手間が無くなり後始末が簡単です。

③ 棒などで容器の底までよくかき混ぜ、塗料を均一にします。

④ ローラーバケを容器の中に入れてローラー部分に塗料をつけます。

⑤ 天面のトレイ部分でローラーを転がし、塗料をまんべんなくなじませて塗装します。

容器をラップでおおう方法

②-1 サゲ手はトレイ部の方へ倒した状態で、ラップを容器の天面より大きめにカットし、缶の天面全体をおおいます。(ポリ塩化ビニレデンのラップをお使い下さい)

②-2 ラップを容器の天面にフィットするように軽く押さえ密着させ、余ったラップを缶側に巻きつけます。

②-3 容器の口の部分のラップにカッターナイフなどで切り込みをいれ、ローラーバケが入るようにします。カットしたラップは容器の口の内側へ巻き込みます。

②-4 サゲ手を持って場所を移動する時は、トレイ部のラップを容器の口の方へめくりあげてサゲ手を持って下さい。再度、塗装する時はサゲ手をトレイ部に倒しラップも元に戻して下さい。

使用上の注意
⑥ 塗装終了後は、トレイ部分や容器の口の周囲に付着した塗料をウエスなどでふき取り、軽くフタをした後、両手親指でフタの両端を強く押してフタを開めます。②のようにあらかじめラップをしておくと、ラップを捨てただけでほとんど汚れずに後始末が簡単です。

シルバー

塩害・サビに強いシルバーペイント

油性シルバーコート

Silver Coat

銀光沢 速乾タイプ

●10Lの容量は、中身の約8割までしか入れず、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。開封後は、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。

●10Lの容量は、中身の約8割までしか入れず、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。開封後は、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積 (1回塗り) 142~170㎡ 82.8~99.2㎡

乾燥時間 夏期/3~5時間 冬期/6~10時間

塗り重ね時間の目安 夏期/1日以上 冬期/2日以上

塗料用器はペイントうすめ液で洗って下さい。

10L

シルバー

塩害・サビに強いシルバーペイント

油性シルバーコート

Silver Coat

銀光沢 速乾タイプ

●10Lの容量は、中身の約8割までしか入れず、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。開封後は、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。

●10Lの容量は、中身の約8割までしか入れず、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。開封後は、必ずラップで密封し、直射日光を避け、5℃以上25℃以下の涼しい場所で保管してください。

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積 (1回塗り) 142~170㎡ 82.8~99.2㎡

乾燥時間 夏期/3~5時間 冬期/6~10時間

塗り重ね時間の目安 夏期/1日以上 冬期/2日以上

塗料用器はペイントうすめ液で洗って下さい。

10L

油性シルバーコート

品名 合成樹脂塗料

成分 合成樹脂(石油樹脂)、油剤、顔料、有機溶剤

特長

- たいへん塗りやすく、1回塗りで仕上がります。
- 塩害に強く、強力サビドメ剤を配合していますので、サビの発生を防ぎ、長期間鉄製品を守ります。
- 日光や雨に強く、美しい銀光沢の合成樹脂塗料です。
- 光や太陽熱を反射するアルミニウムペイントです。

用途

- 鉄製の扉・門扉・フェンス・シャッター・パイプ・機械器具・農機具などあらゆる鉄部・鉄製品(食器など直接口に触れるものや玩具など誤って口に入れる恐れがあるもの、常時水につかる場所や床、手や衣服が触れるところ、車のマフラーなど耐熱性が必要なところには適しません)

塗装方法

- ①はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキワイヤー・ブラシ・サンドペーパーなどを使用して十分に除去します。
- 塗る面のゴミや汚れ・カビを取り、十分に乾かします。油分やワックスはペイントうすめ液でふいてよく落とします。
- 塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいします。
- 右側の「便利なローラートレイ付広口容器の使い方」に従って、塗装の準備をします。
- ④うすめずにそのまま塗ります。
- コーナーや塗りにくいところは先にすじかバケで塗ります。広い面積の部分はコチバケ・ローラーバケ・平バケなどを使うと、速く、楽に塗ることが出来ます。
- マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、ペイントうすめ液かバケ洗い液で洗って下さい。バケについている塗料を新聞紙などでしごき取ってから洗えば、ペイントうすめ液は少量で済みます。

保管上の注意

- ①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食したずるをしないよう注意して下さい。
- ②残った塗料は、フタをし、直射日光や火気のある場所、容器がさびやすいところを選んで保存して下さい。

取扱上の注意

- 1.表示の用途以外には使用しないで下さい。
- 2.火気のあるところでは塗らないで下さい。
- 3.溶剤蒸気を吸入しないよう、目に入らないよう、また誤飲しないよう注意して取扱して下さい。
- 4.有機溶剤が含まれているので、塗装中・乾燥中ともに換気をよくして下さい。
- 5.取扱い中は手袋などを着用し、皮膚に触れないようして下さい。
- 6.塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。
- 7.塗装は雨の降りそうない日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗って下さい。
- 8.あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、色・乾燥性・下地への影響・密着性などを確かめてから塗装して下さい。
- 9.塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件により多少異なります。
- 10.塗り重ねる場合は、1日(冬期は2日)以上おいてからして下さい。乾燥が不十分な場合、塗膜がシワ状に浮き上がることがあります。
- 11.使用中に水が混入しないようにして下さい。誤って混入してしまった塗料は、廃棄して下さい。
- 12.乾燥後も塗膜をこすると色落ちします。塗膜に触れたりして手や衣服に銀粉がつかないように注意して下さい。
- 13.容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
- 14.やむをえず塗料を捨てるときは、油性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
- 15.塗料を移し替える場合は、金属などの溶けない容器をご使用下さい。

危険

●引火性あり ●皮膚刺激 ●アレルギー性皮膚反応のおそれ ●風邪の障害 ●呼吸器への刺激のおそれ ●眼炎やめまいのおそれ ●水生生物に非常に強い毒性

救急処置

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所まで安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。

第2石油類、危険物第2類/火気厳禁、合成樹脂エマルジョン(S-039)

お客様相談室 東京 03(3846)9545 大阪 06(6934)0300
http://www.asahipen.jp

日本製 (01-1104)